

Chapter 5 Meandering Toward Marriage (結婚への紆余曲折)

アメリカ人の 65%は 30 代前半までに、80%以上は 40 歳までに結婚する

→ 現在の Emerging Adults は前の世代よりも多くの時間をシングルでいるか、デートをして過ごすか、結局は結婚する

Emerging Adulthood のうちに、一人のパートナーと長く一緒にいることやより深い情緒的な親密さを構築することに価値を見い出したり、安心やコミットメントを求めたりするようになる

↓

Emerging Adults は学校を卒業するまで、キャリアに落ち着くまで、あるいは独立し、自身の発達や欲求に焦点化するのに十分な機会を得るまで結婚を待ちたい

⇒ 結婚に関する様々なことに対する恐れはあるが、真実の長期的な愛という夢はその恐れよりも優っている

この章では…

① Emerging Adults が結婚相手を見つけるために望む性質を検討する

→ いつ結婚したいかを定める方法や、特に女性に広まっている結婚に対する「30 歳デッドライン」という感覚についても検討する

② コミットメントの問題と同棲に対する異なる動機について説明する

③ 20 代におけるシングルマザーの増加とその結果について説明する

④ 離婚への恐れが結婚期待をどのように形成するかについて検討する

In Search of a Soul Mate: Finding a Marriage Partner

Emerging Adults は結婚相手について幅広く多様な理想像をもっている

○ 知的で、魅力的で、ユーモアのセンスがある

○ 優しく、世話的、愛情があり、信頼できる

○ 類似性がある：最近のカップルはほとんどの余暇時間を一緒に過ごすことを望むため、類似性は以前より重要になった

↓

多くの Emerging Adults は一緒に何かを楽しんでくれる一方、独立した活動をする時間を許してくれる人を求めている

⇒ 活動を共有するよりも、信念や価値観、世界の見方(場合によっては、宗教や人種)を共有できることが大切であると考えている

= Soul Mate を結婚相手として求めている

Soul Mate であることに身体的魅力や性(sex)を加えることにより、より結婚相手の理想像は強力なものになるが、その分、見つけにくくなる

Deciding When to Marry

「いつ結婚するか」の答えは、以前は比較的明らかだった

男性：妻や子どもを経済的に養うことができる → 20代前半

女性：夫や子どもの世話をし、家事ができる → 10代後半

⇒ 20代前半を過ぎても結婚できない女性は生涯結婚できなかった

Emerging Adults は「いつ結婚するか」について自由であり、その規範も弱まっている

→ 20代後半までは結婚を待っているし、30代でも結婚を待っていることもはや異常ではない

⇒ Emerging Adults は、自分のパーソナリティや状況に最もフィットするタイミングで結婚したいと思っている

：経済的な自立と安定したアイデンティティの形成の両方がなされたときにはじめて、

Emerging Adults は結婚の準備ができたと考える

→ Erikson の指摘と合致している

資料①

※14%のアメリカ人は、20～24歳で結婚している

→ 白人、南部に住んでいる、田舎に住んでいる、信心深い、社会階層が低い家庭出身、両親も若くして結婚した、などは早く結婚する傾向にある

The Age 30 Deadline

Emerging Adults は、30歳が結婚すべき年齢としてあげる

→ アイデンティティの探求が終わり、他の誰かにコミットすることができるというイメージをもてる年齢
多くの Emerging Adults(特に女性)にとって、30歳は自分たちの残りの人生のプラン(子どもをもつ前に配偶者と一緒の時間を楽しみたい)にあわせるためのデッドライン

Emerging Adults は自分が決めればいつでも結婚できるが、30歳までは結婚することを待つことができる

→ Emerging Adults 自身も30歳までには結婚したいし、周囲(特に親)からの期待(プレッシャー)も感じる

※特に、アジア系アメリカ人の親は直接的にプレッシャーをかける

→ 友人が結婚するしていくこともプレッシャーになる

⇒ Emerging Adults は30歳に達するときに結婚へのプレッシャーを感じるが、ほとんどの Emerging Adults は、いつ結婚するのが正しいかを自分で決めることに没頭している

Commitment: His and Hers

男女とも、重要な点で類似していて、一緒に生活しやすい soul mate を求めており、結婚前に自立する期間を必要とし、30歳が近づくにつれ、結婚に対して深刻になる

→ 以前よりも厳格な性役割がなくなったので、男性も女性もより対等な背景で恋愛関係に取り組める

↓

女性の方が男性よりも結婚に対するプレッシャーを感じている

- ・生物学的なプレッシャー：子どもをもつには 30 歳前半であり，30 歳後半になると妊娠・出産のリスクが増える
- ・社会・文化的なプレッシャー：30 歳を過ぎると婚期を失うのではないかとという恐れがある

National Marriage Project が男性が 20 代での結婚を急がない 10 の理由を見出している

1. 以前に比べ，結婚しなくてもセックスができる
2. 妻をもつことの利益を楽しむことができる
3. 離婚とそれによる経済的なリスクを避けたい
4. 子どもをもつためにより年齢を重ねることを待っていたい
5. 結婚が過剰に変化や妥協を求めてくるのではないかと恐れている
6. 完璧な soul mate を求めているが，まだ現れない
7. 結婚に対する社会的なプレッシャーにほとんど直面していない
8. すでに子どもがいる女性と結婚することに躊躇している
9. 結婚する前に家を所有したい
10. できる限り一人の生活を楽しまたい

資料②

→ 男性と女性の結婚に対する違いは，20 代後半で互いに真剣に交際しているが結婚の約束をしていないカップルの間に緊張を生む

One Foot In: Cohabitation

結婚をする気はないが，結婚による利益を得たい Emerging Adults には，同棲という選択肢がある

→ 同棲という選択肢は，以前の世代に比べ容易に利用できるようになった(Figure 5.1)

女性では平均 21 歳から，男性では平均 23 歳から同棲をし始めるようになる

↓

半数以上の同棲は 5 年以内に解消する

同棲をする者は，同棲しない者よりも，信心深くなく，教育を受けておらず，政治的にはリベラルである

資料③

同棲には 3 つのタイプがある

①婚前同棲 premarital cohabitation

結婚の約束をしており，結婚に向けた準備もしている

→ 同棲は離婚のリスクを低減させるものであると考えている

※同棲することは，必ずしも結婚の持続可能性を高めるわけではない

②無関与型同棲 uncommitted cohabitation

長期的なコミットメントはしておらず，結婚もできればよいと考えているが，それほど差し迫ってはいない

③関与型同棲 committed cohabitation

(一時的であっても)安定しているが、結婚する意志はない

→ アメリカではこの考え方は普通ではなく、北欧的な考え方である

結婚と同性の違いは、法的書類、儀式、一緒にいることの公的 public な告白を必要とすることである

→ 結婚を私的なコミットメントとは異なり、社会の期待、伝統の力、法の力に支えられたものになっている

⇒ 結婚と同棲は法的にというより心理的に異なっており、結婚は精神的健康、経済的ウェルビーイング、感情的なウェルビーイングをもたらす

※皮肉なことに、アメリカでは約半数の結婚が離婚に至る

同棲から結婚に Emerging Adults を向かわせるものは社会的な(特に親からの)プレッシャーである

→ 親や祖父母は同棲に反対する

⇒ 同棲に対する親の反対を避ける方法として、半同棲 semi-cohabiting がある

: 半同棲を含めると、同棲をしている者は、60~70%よりも多い

→ 同棲に反対する以外に、親は Emerging Adults に資源を与えないことで、同棲を妨げる

: 同棲に反対する親の力は、Emerging Adults が 20 代半ばになり、彼ら自身の意思をより熱心にするとともに、経済的に独立するに伴って弱くなる

⇒ 経済的自立によって Emerging Adults は同棲を許されるようになる

First Comes Love, Then Comes...Baby? The Puzzle of Single Motherhood

平均 17 歳から性行為が始まると、その 10 年以上後に結婚の中央値があることや、間違った避妊具の使用が加わることで、この 10 年ほどで、婚外の妊娠が増えている

・アメリカの初産児の 48%はシングルマザーからである

・30 歳以上の女性の初産児は 53%になる

・1990 年から 10 代の妊娠は半分減ったが、20 代の婚外妊娠は増えた

: 婚外出産の 23%が 10 代で、60%が 20 代である

→ 女性の初産年齢の中央値が結婚年齢の中央値よりも低くなった = Great Crossover

社会階層：大学教育を受けている場合、Great Crossover は生じておらず、シングルマザーの割合も増えていない

大学：初産 30 歳，結婚 27 歳，婚外初産 12%

高校：初産 24 歳，結婚 27 歳，婚外初産 58%

高校以下：初産 20 歳，結婚 25 歳，婚外初産 83%

人種：教育水準とも関わるが、それだけではない(人種的な差異がある)

アジア系：8%

白人：37%(高校以下の女性の婚外初産は 55%)

ラテン系：64%(69%)

アフリカ系：80%以上(87%)

資料④・⑤

資料⑥

個人主義：社会的な変化が 20 代にもたらした

70%の男性 Emerging Adults や 77%の女性 Emerging Adults は、「結婚していない女性が子どもをもつことは悪いことではない」という問いに賛成している

問題なのは、結婚せずに子どもをもつことが人々を幸せにするかまったくわかっていないことであるが、シングルマザーであることは、多くの人が関わる様々な種類のリスクを高めることになる

母親：低い教育的達成と低い収入

カップル：関係が続き、父親が長く子どもとの生活に含まれる可能性の低減

子ども：学校での失敗、問題行動、抑うつ、ドラッグの使用などのリスクの上昇

⇒ 非婚出産が不幸な結果のリスクを高めるにもかかわらず、Emerging Adults はなぜ結婚まで出産を待てないのか？

：社会的階層の低い者は、結婚後まで出産を延期することによって生じる報酬を見積もることができない(多くの社会学者が強調)

→ この解釈は教育的達成の低い者たちにおけるシングルマザーの割合の高さを説明するために用いられるものであり、大学教育の利益やキャリア発達の機会が限られている女性にも応用されている

➤ 理性的に考えた場合、Emerging Adults はこのようなことをするのだろうか？

→ 妊娠は“計画的”ではないが、“偶然”でもないというアンビバレンスが生じている

- ・ある調査では 50%しか正しい避妊をしていないことが明らかにされている
- ・避妊に関する正しい知識も乏しい

：ピル、コンドーム、生理周期、生殖力、政府による人種制限についての無知や誤った理解

- ・20代シングルマザーにおける同棲割合の多さ

：すべての非婚出産の約半分は同棲カップルであるが、20代で子どもをもった同棲カップルは、結婚してから子どもを得たカップルよりも子どもが5歳になる前に別れる確率は約3倍である

シングルマザーは Emerging Adult なのか？

- ・アイデンティティ探求は、かなり制限されている
- ・子どもがいることで、教育的・職業的達成はかなり低下する

→ 子どもをもつことは、本人が準備できているかにかかわらず、Emerging Adult から次の段階に押し進める

“A Horrible Alone Feeling” : The Shadow of Divorce

ほぼすべての Emerging Adults は結婚を強く望んでいるが、今日のアメリカでは離婚率が高いため、結婚は一時的なものであると気づいている

→ アメリカ人は、もし相手との結婚生活があわなければ、離婚して、他の人とのより幸せな組み合わせを求めるべきであると考えている

- ・社会階層の低い者たちの離婚率は上昇しているが、高い者たちの離婚率は下がっている
- ・高校レベルの教育さえ受けていない女性の3分の1は5年のうちに離婚するが、高校レベルでは4分の1、大学以上レベルでは13%しか離婚しない
- ・アフリカ系アメリカ人の離婚率(70%)は、白人(47%)よりも高い

⇒ 離婚への恐れや離婚を避けたいという欲求が結婚年齢を上昇させ、Emerging Adulthood を明確な人生の一段階としている

→ 離婚への恐れは Emerging Adults を用心深くさせ、正しい人 the right person との正しい選択 the right choice ができると感じられるまで結婚を遅らせる

親の離婚を経験した Emerging Adults は、両親から結婚において何をすべきではないのかを学ぶ手がかりを得ている

→ Emerging Adults は彼らを経験した苦しみ(親の離婚)を、将来の子どもに経験させたくないという欲求に動機づけられている

今日の Emerging Adults(特に親の離婚を経験した Emerging Adults)にとって、最初の結婚でさえ大成功であることを意味しているにもかかわらず、彼らが離婚してしまうのはなぜか

⇒ 親の離婚を目撃することは、おそらく苦痛なことであるが、結婚がうまくいかない時の1つの選択肢として離婚を受け入れるようになる

↓

長く幸せな結婚をしている親をもつ Emerging Adults は、離婚をほとんど受け入れられない選択肢であると考えている

→ 両親が一緒にいる Emerging Adults も、兄弟や友人など、多くの結婚の失敗例を目撃している

⇒ 自分の結婚は長く続くように強く願っているにもかかわらず、そのように願ったカップルにとって結婚を終わらせることはありふれたことであることを残念なほど知ってしまっている

Conclusion: Marriage Hopes, Marriage Fears

- ・以前に比べて、Emerging Adults は、結婚について自由であり、“正しい”年齢というものもない
- ・ほとんどの Emerging Adults は、30歳までには結婚したいと思っているが、30歳になっても結婚していない者はたくさんいる
- ・結婚する時期に関する自由な見通しは、Emerging Adults に、自分の生活状況と最も合致するという観点で、結婚のタイミングを決意させる ⇨ 理想の結婚相手が見つかるまで待つ

→ Emerging Adults が結婚について自由であることは、不安や恐れを抱かせる

- ・特に女性は、20代を結婚につながらない関係に費やし、30歳になると結婚の見込みが急激に減ることに恐れる
- ・20代でシングルマザーになっている自分も容易に想像できる

- ・男性にも女性にも離婚が潜んでいる
 - **Emerging Adults** は自分とは同じ悲劇(親の離婚)を避けるためにできることをしようとする
 - ・同棲は他者と過ごし、大きな問題を見つけるために行われる
 - ・結婚に関する正しい選択・判断ができるようになる 20 代後半まで結婚を待つ
- ⇒ もちろん **Emerging Adults** が後悔せずに望む結婚をする保証はないが、**Emerging Adults** は結婚を世間と同じように、慎重に、しかし、楽観的に見ている